

デジタル工事写真の小黑板情報電子化運用基準

1. 目的

直方市発注工事において、受発注者双方の業務効率化を目的に、デジタル工事写真の小黑板情報電子化を導入するものである。

2. 対象工事

本工事でデジタル工事写真の小黑板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督員の承諾を得たうえでデジタル工事写真の小黑板情報電子化対象工事（以降、「対象工事」と称する）とすることができる。対象工事では、以下の3. から6. の全てを実施することとする。

※なお当初契約額が130万円未満の工事の場合は、工事写真帳のみの納品とすることができる。

3. 対象機器の導入

受注者は、デジタル工事写真の小黑板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等（以降、「使用機器」と称する）については、工事写真に関する基準（土木系：福岡県県土整備部「土木工事施工管理の手引き」、建築系：国土交通省官庁営繕部「営繕工事写真撮影要領」）の「撮影方法」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC暗号リスト）」（URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」）に記載している技術を使用していること。

また、受注者は監督員に対し、事前に本工事での使用機器について提示するものとする。

なお、使用機器の事例について、URL

「<http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index.html>」記載の「デジタル工事写真の小黑板情報電子化対応ソフトウェア」を参照。ただし、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。

4. デジタル工事写真における小黑板情報の電子的記入

受注者は、3. の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、工事写真に関する基準の「撮影方法」による。ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

5. 小黑板情報の電子的記入の取扱い

本工事の工事写真の取扱いは、工事写真に関する基準に準ずるが、4. に示す小黑板情報の電子的記入については、「写真の編集等」で規定されている写真加工には該当しない。

6. 小黑板情報の電子的記入を行った写真の納品

受注者は、4. に示す小黑板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黑板情報電子化写真」と称する。）を、工事完成時に監督員へ工事写真帳(A 4版)で納品するものとする。また納品時に、受注者はURL (<http://www.cals.jaic.or.jp/CIM/sharing/index.html>) のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督員へ提出するものとする。

なお、監督員が信憑性を確認するために写真データを提出させることがある。

この基準は、令和元年7月1日から施行する。